

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 6 日作成)

| | | |
|------------------------------|--|---|
| 小委員会名 | 広域避難小委員会 | 主 査 名：糸井川栄一 就任年月：2011 年 4 月 |
| 所属本委員会 (所属運営委員会) | 防火委員会 | 委員長名：山田 常圭 主 査 名： |
| 設 置 期 間 | 2011 年 4 月 ～ 2015 年 3 月 | |
| 設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き) | 地震火災リスクが厳然たる事実として存在することを前提とした広域避難に関して再考し、今後の広域避難計画のあるべき姿について検討を行う <ul style="list-style-type: none"> ・特に現代都市における地震火災による広域避難リスクの分析 ・災害事例における延焼火災による死因の再分析 ・行政が策定する広域避難計画の問題点の整理 ・を論じることが目標である。 | |
| 委員構成 (委員名(所属)) | 委員公募の有無：あり | |
| | 糸井川栄一 (筑波大学) 加藤孝明 (東京大学) 岩見達也 (国土交通省国土技術政策総合研究所) 廣井悠 (名古屋大学) 関沢愛 (東京理科大学) 室崎益輝 (関西学院大) 吉川仁 (防災アンド都市づくり計画室) 西田幸夫(埼玉大学) 江田敏男 (建築ピボット) 竹谷修一(国土交通省国土技術政策総合研究所) 梅本通孝 (筑波大学) 大佛俊泰 (東京工業大学) 市古太郎 (首都大学東京) | |
| 設置 WG (WG 名：目的) | | |
| 2013 年度予算 | 65,000 円 | ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/bouka/s2/hinan.htm |

| 項 目 | 自 己 評 価 |
|---|----------------|
| 委員会開催数 | 6 回 (年度内計画を含む) |
| 刊行物 (シンポジウム資料等は 除く) | |
| 講習会 | |
| 催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画 | |
| 大会研究集会 | |
| 対外的意見表明・パ ブリックコメント等 | |

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> | <p>(1)東日本大震災で明らかになった広域避難事例からみた広域避難時の課題と問題点の整理 【達成度】 市古太郎准教授（首都大学東京）を講師に招き、東日本大震災の避難の実態に関する調査研究について講演をしていただいた。その後、市古氏は小委員会メンバーとして参画した。 筑波大学（梅本、糸井川）から、市街地ならびに海水浴場における津波避難意識調査結果について紹介がされた。 これらの結果を受けて、津波襲来時の広域避難問題と、市街地火災時の広域避難の比較、問題点の違い等について検討を行った。</p> <p>(2)「広域避難」に関する住民のイメージ、防災意識等に関する調査</p> <p>(3)広域避難時のリスク評価に関する調査 【達成度】 大佛俊泰教授（東京工業大学）を講師に招き、大規模地震による市街地火災時の広域避難場所への避難に関するマルチエージェントシミュレーションについて講演をしていただいた。その後、大佛氏は小委員会メンバーとして参画した。 江田敏男氏（建築ピボット）による、東京 23 区全域を対象とした大規模地震による市街地火災時の避難に関するマルチエージェントシミュレーションの紹介があった。 これらの成果を受けて、帰宅困難者の帰宅行動との関係や、広域避難に関する住民のイメージ、防災意識等がもたらす広域避難行動への影響の問題、リスク評価の問題等について検討を行った。</p> |
| <p>委員会活動の問題点 ・課題</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「広域避難」に関する住民のイメージ、防災意識等について調査することの必要性 2. 帰宅困難者問題ならびに広域避難問題を統合した視点での分析の必要性 3. 広域避難時の被災リスク評価の方法に関する検討の必要性 |